



韓国・長水(チャンス)郡と東川町との交換研修員として、今年5月から6カ月間の予定で来日しました。長水郡は農業が主産業で標高500メートル地帯。東川町と自然条件がよく似ているそうです。研修期間中、北海道各地を見てみたい、と積極的です。

6月中旬から地域活性課に配属勤務を始めています。5月に来日後、1カ月間滋賀県で日本語研修を受け、日常会話の内容をほとんど理解できるそうです。

郡庁では、大学で学んだ専門知識を農業政策、一般政策に生かす専門職。今後理学博士の取得を目指しているそうです。

来町後、長水郡から約1カ月間、夏休みを利用して日本語研修に来ていた同郷の高校生6人と一緒に



長水郡から来た高校生と一緒に知床観光に行きました(7月26日)

道東の知床、阿寒、網走、そして道央・札幌、小樽などへ観光研修もしました。知床の旅は、霧がかかってあいにくの天候でしたが、手つかずの自然を海から間近に感じて思い出を深めたようです。

「道央から道東にかけて北海道を横断したので、今度は南の函館に行きたい」と道南への旅が楽しみになったよう。

◇ 長水郡の主産業はりんごで、高所得者が多いそ

うです。「年収は千万円くらいになっていく人も多く、都会で働くより所得が高くなるので、働きに出た子どもたちが帰ってくるケースも多い」といいます。



来日後と一緒に日本語研修した修了生と(6月17日、滋賀県大津市の全国市町村国際文化研修所で)

「主食の米は、韓国でも消費が少なくなっています。農村地帯は高齢化が進んで、若い世代も少なくなっています。水田農業は深刻で、土地を使わなくなって休耕地が多くなっています」。そのため転作が進み、高所得作物の生産を進めているそうです。

現在、主産業のりんごのほか、牛肉、そして「五味子(オミザ)」がとて有名だそうです。

「五味子」とは、日本名「チヨ

ウセンゴミシ」という落葉性のつる植物。赤い実は甘い、酸っぱい、辛い、しょっぱい、苦い、という5つの味を持つといわれ、お茶や漢方用として需要があるようです。「農業はすでに生産だけでなく、加工、観光まで結びつけて複合化している」といい、「ローカルフード直売店」と呼ぶ産直販売が、出始めてきたそうです。「韓国内では3〜4割くらいまで整備が進んでいます。りんごはジュース、ジャム加工し、牛肉も加工販売しています。最近農産物の生産者組合のように加工協同組合もできました。日本では一次生産物がどのように複合化しているのかを見てみたい」と、道の駅などの産直販売の様子に関心を持っています。

馬 貞淑(マ・ジョンスク)さん

韓国・長水(チャンス)郡出身。今年6月から11月まで、長水郡交換研修員として、役場地域活性課に在籍。全羅北道長水郡庁職員。国立全北大学大学院博士課程修了(畜産学、農業経済学)。

韓国から来た高校生と一緒に(7月24日日本語研修生歓迎パーティーで、農村環境改善センター)

